CONTENTS

02 まちのNEWS!
06 令和7年度 決算報告
10 くらしの情報
22 こども家庭センター
23 リコール情報を確認しましょう
24 科学の祭典
25 人権講演会
26 竹原ピストル弾き語りコンサート2027
27 友だちリレー、Cook Doどぅ？
28 図書館へおいでよ
29 つばた空港、こども科学館
30 コミュニティチャンネル
31 赤ひげ通信、文芸
32 手話、フィットネス、QUIZ
33 慶弔だより
35 こどもの広場
37 ごみ収集ごよみ、休日当番医ほか
39 イベントカレンダー

祝 令和八年九月場所

6場所ぶり6度目

大の里関 九月場所幕内最高優勝



大相撲九月場所が、9月13日から27日にわたって両国国技館（東京都）で開催され、横綱大の里（本名：中村泰輝さん・二所ノ関部屋所属）が6場所ぶり6度目の幕内最高優勝を果たしました。

大の里関は、持ち前の力強さを発揮して着実に白星を重ね、千秋楽を11勝3敗で迎えました。優勝を懸けた大関安青錦との大一番では、立ち合いから力強く攻め、突き出しで勝利し、見事に優勝を決めました。



優勝インタビューでは、「けがをして思い通りの相撲がとれない1年が続いて、先場所でも苦しい思いをした。こうやって優勝できてうれしい。強い横綱を見せられるよう、しっかり稽古に精進して頑張ります」と涙ながらに喜びと今後の決意を語りました。

ふるさと津幡から大の里関へ!!

パブリックビューイングで大声援

千秋楽にはシグナスでパブリックビューイングが行われ、約200人が応援に駆けつけました。



タオルやうちわを掲げて大声援を送り、優勝の瞬間は大歓喜が湧き起こりました。



このコーナーでは、町のニュースや地域のイベントなど、町の話題をお伝えしていきます。

今月の表紙



古代土器づくり

今月の表紙は、10月17日にシグナスで開催された「子ども歴史民俗講座～古代土器づくり～」の様子です。

この講座は、小学4～6年生を対象に、古代土器について学び、実際に土器づくりを体験するものです。

参加者は、粘土をこねたり、重ねたり、伸ばしたりしながら、少しずつ土器の形を整えていきました。形ができ上がると、縄や貝殻、石などを使って表面に模様を付け、それぞれ工夫を凝らしたオリジナルの土器に仕上げていました。

製作した土器は、一定期間乾燥させた後、野焼きをして完成します。（北方）

10/17

仮装姿の参加者でにぎわう

どまんなかdeハロウィン

どまんなかdeハロウィン2026が10月17日に四ツ角交差点周辺で行われ、約600人が仮装パレードやステージイベントを楽しみました。

この催しは、町の商工業や商店街を盛り上げようと、津幡町商工会が開催しており、今年で5回目となります。

当日は魔女やピエロ、アニメ・漫画のキャラクターなど、工夫を凝らした仮装姿の参加者が集まり、とてもにぎやかな一日となりました。

参加者は商店街の店を巡り、「トリック・オア・トリート」などと声をかけ、仮装した店員からお菓子を受け取っていました。





10/8

19年ぶりに津幡町で開催

石川県公民館大会

第78回石川県公民館大会が10月8日にシグナスで開催されました。本町での開催は19年ぶりとなり、県内の公民館関係者が一堂に会しました。

式典では「親しまれる公民館を目指して」を主題に、優良公民館や公民館職員への表彰などが行われました。また、大正大学の牧野篤教授による記念講演「『ふるさと』をつくり、つなげる公民館」のほか、文部科学大臣表彰を受賞した金沢市富樫公民館と穴水町立穴水公民館による実践発表が行われ、出席者は公民館の役割や活動について理解を深めました。

大会の最後には、次期開催地の野々市市へ大会旗が引き継がれました。

10/18

測定で自分の体を知ろう

健康まつり2026

健康まつりが10月18日に福祉センターで開催され、312人が訪れました。

今年度は「知ろう!学ぼう!健康づくり!~未来輝く自分のために~」をテーマに、体組成や血糖、骨密度、血管年齢などの測定のほか、ボッチャやフッ化物洗口などの体験が行われました。普段は測定する機会の少ない項目や体験を通して、自分の健康状態を知るとともに、野菜の計測体験やベジタブルチェックでは食習慣を振り返りました。

また、輪投げや魚つりゲームなど、親子で参加できるコーナーもあり、子どもから大人まで楽しみながら健康づくりへの理解を深めました。





10/12

あなたの体力年齢は？

スポーツの日 体力測定

体力測定会が10月12日に総合体育館で行われ、小学生から高齢者まで38人が参加しました。

この催しは、スポーツに親しむことで心身を鍛え、健康なまちづくりを目指して毎年開催されており、参加者はこの測定結果を毎年の体力維持のための指標にしているとのことです。

町スポーツ推進委員会の指導のもと、参加者は6つの測定種目に挑戦しました。測定後には体力年齢が判定され、実年齢よりも高かったり、大幅に若かったりと、結果はさまざまでした。日頃の運動を通して体力を維持することの大切さを実感する機会となりました。

10/24

トリック・オア・トリート

ハロウィンパーティー

津幡町2026ハロウィンパーティーが10月24日に福祉センターで開催され、仮装した小学生45人が参加しました。

ダンスで交流を深め、ジャック・オ・ランタンの物語を聴いた後、紙コップでランタン作りに挑戦しました。完成したランタンを手に暗い迷路を冒険し、町の国際交流員や外国語指導助手とのじゃんけんに勝って先へ進んだり、「トリック・オア・トリート」の合言葉でお菓子をもらったりして楽しみました。

最後は、昨年も好評だった「ピニャータ割り」に挑戦。子どもたちは、お菓子と手作りランタンをお土産に、笑顔いっぱいで会場を後にしました。





10/18

障害者就労への理解を深める

ハートフルマルシェ

ハートフルマルシェが10月18日にアル・プラザ津幡で開催され、多くの来場者でにぎわいました。

このイベントは、障害者就労への理解を深めることを目的に開催されるものです。

会場では、町障害者地域自立支援協議会「しごと部会」による障害者就労に関する相談や町内の事業所で作られたお菓子などの販売コーナーが設けられました。

また、障害者支援施設を紹介する展示や就労継続支援B型事業所で行われている作業の実演もあり、障害のある方の働き方について理解を深める機会となりました。

10/25

美しい演技で観客を魅了

輝け！シグナス芸能祭

第20回シグナス芸能祭が10月25日にシグナスで開催され、約600人の観客を楽しませました。

町内外で活躍する文化芸能団体10団体から約231人が出演し、バレエや合唱、マンドリン、ダンス、民謡、詩吟、吹奏楽など、さまざまなジャンルの演目が披露されました。

日頃の練習の成果を発揮しようと、子どもから大人まで幅広い年代の出演者が工夫を凝らしたステージに上がり、華麗な演技や美しい演奏を披露すると、観客からは大きな拍手が送られました。幕間には「津幡おきらくごの会」による落語も披露され、会場を盛り上げました。





10/22

自己記録に挑戦

小学校体育大会

第11回津幡町小学校体育大会が10月22日に津幡運動公園陸上競技場で行われ、町内8小学校の6年生約320人が参加しました。

開会式に続き、全員で集団演技「津幡町歌体操」を披露した後、50m走の記録を測定しました。

その後、児童は1000m走・ジャベリックボール投げ・走り幅跳びの中から1種目を選び、記録に挑戦しました。最後に行われた学校対抗リレーでは、各校の代表児童がトラックを激走し、スタンドの児童や保護者からは大きな声援が送られました。

この模様は、町コミュニティチャンネル「つばたホットライン」で11月16日から放送予定です。

9/28

Welcome to Tsubata town.

豪州コロ・ハイスクールが津幡町を初訪問！

津幡町中学生海外派遣交流事業を通じて親交のあるオーストラリアのコロ・ハイスクールから、日本語を学ぶ生徒18人と引率者3人の訪問団が、初めて津幡町を訪れました。

9月28日からの5日間、生徒たちは津幡中学校と津幡南中学校の生徒がいる8家庭でホームステイをしました。言葉や生活習慣の違いに戸惑いながらも、身振り手振りを交えて思いを伝え合い、共に暮らす中で互いの文化や人柄への理解を深めました。滞在中は、両中学校での体験授業を通して町の生徒たちと交流したほか、町のプログラムでは餅つきや浴衣の着付けなど、日本の伝統文化を体験しました。さまざまな体験を通して、日本の文化や暮らしへの理解を深める機会となりました。

ホストファミリーや町の生徒たちと過ごし、日本の文化や暮らしに触れながら、多くの思い出をつくった生徒たちは、充実した5日間を終え、ホストファミリーや友人たちとの別れを惜しみながら、津幡町を後にしました。

今回の来町を機に、交流がさらに深まっていくことが期待されます。













訪問団受け入れ日程

9月28日(月)
ウェルカムセレモニー（朝霞太鼓演奏）
9月29日(火)・30日(水)
中学校体験授業
10月1日(木)
つばた体験プログラム
餅つき・浴衣着付け・抹茶体験
和楽器ミニコンサート鑑賞
倶利迦羅不動寺西之坊鳳凰殿散策
さよならセレモニー
10月2日(金)
見送り

ホストファミリーの声

・オーストラリアの文化や生活様式を知ることができ、知識が広がった。積極的に話しかけたり、英語で話す楽しさに改めて気づかされることが多く、ホストファミリーをして良かった。

・子どもが外国に視点を向けるきっかけになった。また、親子での対話が増え、家族の距離が近くなった。

・ホームステイが終わった後も、子どもが英語について少し前向きに取り組むようになった。